

「東郷学園義務教育学校の藤川天神史跡活用の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

4年生 計56人

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和3年2月24日（水） 藤川天神

(2) 発表の日時・場所

令和3年2月24日（水） 藤川天神

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

藤川天神（ふじかわてんじん）：正保四年（1647年）に再興

臥竜梅（がりゅうばい）：樹齢千年を超える

(2) 特徴

藤川天神の祭神は学問の神様として親しまれる菅原道真公で「菅原神社」とも呼ばれている。道真公が太宰府に左遷され、さらに逃れて藤川北野の地に隠退、没したと言い伝えられ、毎年、大晦日から三が日は大勢の初詣客で賑わい、また受験シーズンには合格を祈願する受験生や家族などで賑わいを見せる。

境内の梅園には、約150本の梅の木があり、このうち50株の梅はその幹を地上に伏せ、その姿がまるで竜のように見えることから「臥竜梅」と呼ばれている。

5 保存会や地域との連携の具体

旧藤川小学校では、ふるさと・コミュニケーション科の学習で、「観梅会」を行っていた。この活動は、学校から藤川天神までの道沿い・藤川天神の清掃活動を行い、その後、梅園の臥竜梅のたもとで梅の句を詠むものであった。

旧藤川小学校が平成29年3月に閉校されるに伴い、平成29・30年度は再編先であった旧東郷小学校にて、令和元年度からは東郷学園義務教育学校にて、ふるさと・コミュニケーション科における「地域を学ぶ学習」の一つとして、4年児童が本活動を引き継いでいる。

藤川天神の臥竜梅は、毎年2月中旬から3月上旬に薄いピンク色の花を咲かせる。この時期は多くの観梅客で賑わいを見せる。東郷学園義務教育学校の4年児童は、この梅の時期に合わせて児童一人一人が梅の句を作る。そして、観梅会当日、満開の梅の花を前に自作の句を詠むことで、地域の史跡に対する親しみや誇りを育んでいる。

6 活用の取組の工夫した点

ふるさと東郷には、多くの歴史や文化があり、現在までそのよさやすばらしさを継承している。

4年児童が行う観梅会には、テレビや新聞等多くの報道関係者が訪れ、梅の名所である藤川天神を県下にPRする。また、児童の作った句は、境内の茶屋に掲示され、観光客からも好評である。4年児童にとって、観梅会は思い出深い行事の一つである。

7 取組の様子（研究発表等）



【観梅会（写真は、令和元年度のもの）】

8 参加児童生徒・保護者・教職員等の感想・意見

【児童生徒】

- 藤川天神の臥竜梅の前で、毎年梅の俳句を発表することが楽しみです。テレビにも出るので、藤川が有名になって観光客がいっぱいくるのでうれしいです。
- 藤川天神を調べてみて、初めて知ることがたくさんあったので驚きました。わたしが住んでいる東郷町に、こんなに有名な神社があることがとても自慢です。調べて分かったことをたくさんの人に知らせたいです。

【教職員】

- 東郷には、他に誇れる歴史や文化が息づいている。児童生徒がその歴史や文化にふれることで、ふるさとを大切に思ったり、誇りに思ったりできると思う。このような学習を系統的に進めていく必要がある。

【保護者】

- 自分が子どもの頃に身近にあっても詳しく調べることはなかった。子どもたちが学んだことを聞くことで、改めて東郷を見直すきっかけになりました。子どもたちにふるさとを大切に思う気持ちをもっと育てていきたいと感じました。